夕張市議会だより

２０１９年８月１日
第44号
夕張市議会だより編集委員会

ごあいさつ

夕張市議会議長　小林尚文

　年号が「平成」から「令和」に変わり、夕張市議会も新たな体制により議会運営がスタートいたしました。

　４年前の市議会議員選挙は無投票でしたが、本年４月に行われた市議会議員選挙におきましては、議員定数が９人から１人減の８人となり、８年ぶりの選挙戦となったわけでありますが、市民の皆様には各候補者の訴えに耳を傾けていただき、投票所に足を運んでいただきました。

　また、私をはじめ当選した各議員も投票をいただいた有権者の皆様の「一票」の重さに身の引き締まる思いであると考えております。夕張市議会を代表して、心より感謝申し上げます。

　６月には、８人による新たな体制により、令和元年第２回定例市議会が開催され、今後の課題についても質疑がなされたところであります。

　市議会といたしましては、機関として持つべき役割を最大限に生かし、８人の議員が市長をはじめ理事者側と協議・議論を重ね、課題の解決に向け努力していく所存であります。

　３月末をもってＪＲ夕張支線の廃線、同時に新たな交通体系のスタート、４月には石炭博物館の模擬坑道が火災に見舞われる等、今後の課題整理や方針についても慎重な協議が必要であると考えております。

　今年で財政（再建）再生団体となってから13年、財政再生計画の抜本見直しがなされ新たな事業として、拠点複合施設、認定こども園、市立診療所の建設計画が進められております。

　これら施設が有効に利活用できるよう、市民の皆様との意見交換などを通じ、情報の共有を図り、議会反映に結び付けていくとともに公平公正でわかりやすい議会のあり方をこれまで以上に進めてまいります。

　市民の皆様が「夕張に住んでいて良かった」と思える街づくりを進めていくため、市民の身近な議会活動を心がけていく所存であります。

　本市は、本年５月末で人口が８，０００人を割り、高齢化率も５１．２１％と超高齢化社会となり、二人に一人が65歳以上の高齢者となりましたが、８人の議員が地域に根差した活動を通じ、夕張市の再生と地域の活性化を推進すべく、市民の皆様の期待に応えてまいる所存であります。

　以上を申し述べ、議会を代表しての挨拶とさせていただきます。

　結びに、今後とも議会の運営、活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

ご意見・ご感想をお寄せください

本町４丁目市役所内
夕張市議会事務局
電話　52－3172
又は　52－3131
までお願いします。

■編集委員■

委員長　今川和哉
副委員長　熊谷桂子
委員　君島孝夫
委員　大山修二
委員　本田靖人
委員　千葉　勝
委員　高間澄子

夕張市議会は４月の統一地方選において新たな任期を迎えました。また、新任期初の定例市議会となる令和元年第２回定例市議会からは傍聴の皆様により議論の中身がわかりやすくなるよう、一般質問をタイトルごと再質問まで１件ずつやりとりをする形式に変更しております。

議員紹介

君島 孝夫
昭和21年4月3日生

二期目の議員活動に入りました君島孝夫です。

私は元気で年齢を重ねるマチへと言うスローガンを掲げました。一つ目は皆が愛する夕張の魅力を広く発信し、交流人口増加を推進し豊かな自然、人情味溢れる住民の豊かさ、夕張メロン、炭鉱遺産、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭などを通じて「心のふるさと夕張」創生を目指します。また二世代交流の先頭に立ち夕張の世代間の橋渡し役を担います。そして、いつまでも現役世代として元気で健康な暮らしが出来るまちづくりを目指します。

小林 尚文
昭和28年4月11日生

夕張市の南の玄関滝ノ上に開拓農業の三代目として、現在二人の後継者(息子)と夕張メロンの生産に取り組んでいます。

本年5月に室蘭市で開催された第82回北海道市議会議長会定期総会において、夕張市が来年の定期総会開催地に決定いたしました。定期総会の開催地として、地域経済の活性化に繋がるようPRに努めるとともに成功裏に終えられるよう準備を進めてまいります。

また、本市にあっては貴重な財源となっている現行の「過疎地域自立促進特別措置法」が令和2年度末をもって失効することとなるため、全国過疎地域自立促進連盟北海道支部の理事として、新たな過疎対策法の制定に向け、要望活動を行ってまいります。

大山 修二
昭和28年2月3日生

私は、これまでの二期8年間で、財政の再建と地域の再生・市営住宅の再編と民間賃貸住宅の建設促進・高齢者の皆様が利用しやすい公共交通・市立診療所の移転・新築、森林資源を活用した薬木の植栽事業等々について本会議で質問・要望等を行ってまいりました。

また、南清水沢3丁目から札幌方面への道々1008号線の早期着工についても、道議会と連携しながら取組んで参りました。

今期においても、「明るい夕張・元気な夕張」を合言葉に活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。

本田 靖人
昭和48年8月17日生

鹿の谷東丘町在住の45歳。好きなスポーツは、バレーボールで、2013年に少年団を新たに立ち上げ、昨年夏には全国大会に出場することができました。

議員1期目の前期は、子ども・子育て環境の充実と地域コミュニティの維持に向けた取組みに特に力を入れて議員活動を展開してまいりました。

議員2期目の今期は、これまでの活動をさらに発展させるとともに、福祉政策についても研究し、高齢者が安心して夕張で暮らし続けることのできる環境づくりに努めて参ります。

千葉 勝
昭和28年3月7日生

住まいは紅葉山で66歳。1971年から2015年まで夕張市内小中学校9校で学校事務職員として勤務していました。

2015年4月の市議会議員選挙に無所属で立候補し初当選。現在二期目。

この間「子どもと若者に夢のある街づくり」を目標に教育問題を中心に議会活動を進めてきました。

これからも、財政の再建と地域の再生、子どもたちが、故郷夕張で安心して暮らし続けられる街づくりを推進し、教育予算の充実と子どもたちが生き生きと学べる教育環境づくり、そして平和憲法を守り誰もが安心して住める街づくりを推進してまいります。

熊谷 桂子
昭和29年2月22日生

２００３年に初当選、今回４期目の負託をいただきました。

１９８７年、夕張で初の学童保育を自宅で始め、保護者の皆さんと「共同学童保育への助成と公設化への署名」集めや、資金づくりに取組み、粘り強い市民運動の成果として、10年後の97年、公設の学童保育が設置されました。

『政治は住民のためにある』これが私の原点です。

11年間、小中学校で教育にも携わってきましたが、社会保障が進んでいる国は、小学校から主権者教育に取り組んでいます。

ご一緒に住民自治をすすめましょう。

詳細はＷｅｂで検索：くまがい桂子のユーパ口の風

高間 澄子
昭和26年1月2日生

夕張で生まれて、夕張で育ち今に至ります。沼ノ沢は農村地域ですので、とても良い環境だったと思っています。

先輩議員の後を受け、市の財政破綻から議員になって13年になります。中でも再建計画から再生計画に変わるまでの３年は、職員も議員も市民も含め町中が大変であり、辛かったと思う。

困難な環境に負けず、むしろ向かって走り抜ける不思議なところが夕張なのかなあとこの頃思う。

他の人と共感しながら移り変わるこのまちに、ずうっと居たいと思っています。

今川 和哉
平成元年3月23日生

夕張市紅葉山にて、妻と1歳の娘と3人暮らしをしています。議会活動のほか、夕張市内にて司法書士・行政書士事務所を経営し、不動産会社「夕張開発株式会社」の代表取締役・宅地建物取引士として、市内の不動産や相続・法律業務などを行わせていただいています。前回26歳のときに道内最年少にて初当選いただいてから2期目30歳になりました。民間事業者の視点、将来世代のためという視点を基に、未来の夕張市について考える政治活動を行っていきます。また、今期も若手市議会議員の会をはじめとした外部の議員との研修会や意見交換にも力を入れていくつもりです。

◇札幌市出身
◇北海学園大学法学部卒

平成31年第1回定例市議会

第1回定例市議会は、平成31年3月5日から15日の11日間を会期として開催されました。3月14日に「行政常任委員会」を開き、来年度の予算について審議しました。

議案

◎夕張市財政再生計画の変更について
◎夕張市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
◎夕張市生活館等設置条例の一部改正について
◎夕張市営住宅条例の一部改正について
◎夕張市賃貸住宅条例の一部改正について
◎夕張市企業開発促進条例の一部改正について
◎夕張水道法施行条例の一部改正について
◎夕張市消防団条例の一部改正について
◎指定管理者の指定について
・夕張市民健康会館
・夕張市千代田コミュニティセンター
・市内各生活館等
・ゆうばりはまなす会館
・幸福の黄色いハンカチ広場
◎平成31年度夕張市一般会計予算
◎平成31年度夕張市国民健康保険事業会計予算
◎平成31年度夕張市公共下水道事業会計予算
◎平成31年度夕張市介護保険事業会計予算
◎平成31年度夕張市後期高齢者医療事業会計予算
◎平成31年度夕張市水道事業会計予算
◎平成30年度夕張市一般会計補正予算
◎平成30年度夕張市国民健康保険事業会計補正予算
◎平成30年度夕張市公共下水道事業会計補正予算
◎平成30年度夕張市介護保険事業会計補正予算
◎平成30年度夕張市後期高齢者医療事業会計補正予算

令和元年 第1回臨時市議会

報告
◎専決処分の報告について
◎例月現金出納検査の結果について（3件）

決議
◎閉会中の所管事務調査について

選挙
◎夕張市議会議長の選挙について
◎夕張市議会副議長の選挙について
◎空知教育センター組合議会の議員の選挙について
◎南空知ふるさと市町村圏組合議会の議員の選挙について

議案
◎夕張市議会委員会条例の一部改正について
◎夕張市議会常任委員会委員長及び副委員長の選任について
◎夕張市議会議会運営委員会委員の選任について
◎夕張市議会議会運営委員会委員長及び副委員長の選任について
◎夕張市監査委員の選任について

令和元年 第2回臨時市議会

報告
◎専決処分の承認を求めることについて

決議
◎閉会中の所管事務調査について

議案
◎夕張市事務分掌条例の一部改正について
◎夕張市財政再生計画の変更について
◎夕張市税条例の一部改正について
◎災害弔慰金の支給に関する条例の一部改正について
◎夕張市国民健康保険条例の一部改正について
◎令和元年度夕張市一般会計補正予算
◎令和元年度夕張市国民健康保険事業会計補正予算
◎令和元年度夕張市介護保険事業会計補正予算
◎夕張市介護保険条例の一部改正について
◎工事請負契約の締結について（（仮称）認定こども園建設工事）

令和元年第2回定例市議会

第2回定例市議会は、令和元年6月5日から17日までの13日間を会期として開催されました。議案9件・諮問1件・意見書案3件の審議を行い、すべて原案のとおり可決したほか7件の報告がなされました。

諮問
◎人権擁護委員候補者の推薦について

報告
◎平成30年度夕張市一般会計繰越明許費繰越額の報告について
◎定期監査の結果について（2件）
◎例月現金出納検査の結果について（4件）

意見書
◎新たな過疎対策法の制定に関する意見書（提出議員　君島・大山・本田・千葉・熊谷・高間・今川）
◎「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・教職員の超勤・多忙化解消・「少人数学級」の実現に向けた意見書（提出議員　千葉・君島・本田・熊谷）
◎２０２０年度地方財政の充実・強化を求める意見書（提出議員　千葉・君島・本田・熊谷・今川）

一般質問

君島孝夫議員質問

観光プロモーション設立について

問　観光推進体制の一元化について

答　平成二十九年八月市役所内に観光推進チームを設立し交流人口の拡大にむけた観光体制の一元化に関する取り組みを進めて来たところであり、その中で新たな観光団体については、民間企業や団体等で組織する夕張観光プロモーション推進協議会の構成メンバーが中心になり透明性の高い運営に当たるため一般社団法人化することを目指し、現在設立に必要な定款を作成したところであり今後新たな団体については今月中に法人登記を行い四月から観光情報の共有や、観光マップの作成などの事業を開始する予定と伺っているところです。

問　新たな組織での事務局体

制について

答 地域の再生を目指す本市において観光策定の推進を図ることは重要な取り組みでありその中核となるのは現在設立を進めている（仮）一般社団法人夕張観光プロモーションであると認識している。そのため市としては昨年十月に観光促進支援を業務とする新たな地域おこし協力隊を採用するなどの取組みをおこなっている。新たな団体の事務局については地域おこし協力隊員が地域おこし企業人として㈱ＡＮＡ総合研究所から派遣頂いている方などが中心になって運営してまいる予定です。今後関係する方々が一体となってより一層積極的な情報発信や事業展開を発信する事によって安定的な事業運営が管工事業の運営に図られ当該団体が夕張の観光を健栄する組織となることを期待しています。

追記

市民や民間事業者のがんばりを市としてもしっかり支えて頂きたいと考えております。

市民や事業者の皆様と一つになって、今後とも、魅力ある夕張を創り上げて行けるよう努力してまいる所存です。

熊谷桂子議員質問

拠点複合施設について

問 新年度中にオープン予定の拠点複合施設について、運営体制は市民を含めたものとし、オープニングイベントについても市民とともに計画すべきではないか。また、施設の愛称なども市民から募集することによって、関心も高まり、利用の拡大につながるのではないか。

答 運営については多様な市民のニーズがあり、南支所や教育委員会も入る中で、市民との連携を考えたい。愛称については、施設のキャッチフレーズを夕張高校生から募集をした経緯もあり、それらを踏まえて考えたい。

給食費について

問 給食費の未納について、子どもの貧困が増えている中、先進地域のように無償化や補助、就学援助の拡大にも力を入れるべきではないか。

答 公平性の面からも有効な方策を考えていきたい。

職員の増員について

問 生涯学習プロジェクトやワクワクプロジェクト事業について、スタッフ不足との反省事項が出されているが、図書館司書も含め職員の増員が必要ではないか。

答 人員不足は否めないが、教育委員会、社会教育主事、図書館司書などの専門職が拠点複合施設に入ることになるため、協力し合ってスタッフ不足を補いあえると考えている。

意見

夕張の本当の「再生」は、住んでいる市民が、生き生きと楽しく暮らせるまちになること。

そのためには子どもの貧困の解消はもちろん、「人間は文化を食べる生き物」という言葉があるとおり、文化の発展の拠点ともなる複合施設には大きな期待が寄せられている。そこに入る図書館機能やスタッフの充実、学校図書館の充実についても、新年度に向けて強く要望する。

一般質問

本田靖人議員質問

市長所信表明について

問 職員数見直しと職員給与改善について

答 行政運営を安定的に進めるために、国や北海道と十分に協議を行いながら必要な見直しに向けて取り組んでいく。

問 行政組織の横の連携強化について

答 各課横断的に情報の共有化を進める。また、庁議に加え、必要に応じて連絡会議を開催するなど、庁内の問題意識の統一化を図る。

問 他自治体との人事交流について

答 現時点で、対象自治体までは検討が及んでいないが、北海道や近隣自治体が想定される。現在実施している「財政再生派遣」とは異なる双方向での人事交流が望ましいと考えている。

問 「地域互助会（仮称）」について

答 小規模多機能自治推進ネットワーク協議会への参画を目標とする。「地域互助会（仮称）」は、既存の町内会や敬老クラブ、商工会等の組織の横の連携を密にして、それぞれの行政区域の課題を自ら解決していきましょうという仕組み。行政としては、条例制定を含め、地域に与えられる権限を明確にしていく。今のところ、市職員が各地域を担当するということは想定していない。

問 事業継承支援について

答 公共機能を担う事業者へのヒヤリングを行いながら課題を共有し、担い手育成、事業継承に必要な支援策について検討していく。

問 資格取得支援の実績について

答 平成29年からのべ63名が利用。幼稚園教諭二種や介護福祉士等様々な資

格取得に活用してもらった。今後も、継続していくために、地域再生計画の策定、財源となる企業版ふるさと納税の獲得に前向きに取り組んでいく。

問 夕張メロン生産者子弟に対する新たな就農支援策について

答 担い手不足解消、遊休農地の活用を進めるために、それら全てをパッケージとしてクリアすべく、リスクを減らすための支援策を検討しており、先日開催された夕張市農業振興協議会の総会で提案したところ。

教育行政執行方針について

問 部活動の活性化について

答 夕張中学校において外部指導員の招聘の実績はないが、今後は予算編成に間に合うように早い段階で校長と協議を進める。

問 総合型地域スポーツクラブへの部活動の移行について

答 当該クラブとの調整や中体連大会への出場資格の調整はついていないが、子どもたちの活動機会を作っていくために、できることをひとつひとつ対応していきたい。また、できるだけ教職員が勤務時間内で部活動に対応できるよう、当該クラブとの調整をつけていきたい。

千葉　勝議員質問

教育行政執行方針について

問 基礎学力の定着状況について

答 小学校低学年における定着状況は、標準学力検査NRTにより確認しております。小学校1年生は実施していませんので2年生の過去3年間を比較いたしました。

国語では、
28年度47・8ポイント
29年度49・9ポイント
30年度51・5ポイント

算数においては、
28年度48・9ポイント
29年度49・5ポイント
30年度49・2ポイント

となっています。国語、算数共に一定の目標である50ポイントをほぼクリアいてします。

これにつきましては、教職員の研修機会を積極的に設け、教職員の資質向上を図ると共に、ICT教育の推進と家庭学習の定着、また、学校の主体的取り組みの支援、放課後学習支援サポートスタディーを継続的に実施し、基礎学力の向上を目指してまいりたい。

問 中学校における放課後支援学習事業についての検討状況について

答 2年間学校と対応を協議してきましたが部活動との関係で放課後学習支援は設けられませんでした。部活動をしていない生徒に放課後学習支援を設けられないか今後も協議を継続していきたい。

問 少人数学級による指導についての考えについて

答 習熟度でしかも少人数というのが子どもたちの学力向上に大きく寄与すると理解している。そのような場面を学校教育の中で推進していかなければならないという考えでおります。

問 夕張高校の進学実績の向上と部活動の活性化の具体的方策について

答 進学実績の向上を目指す上では、公設塾「夕張学舎キセキノ」を設置し、目標とする進路に向かって、自らの力で切り拓き、実行する、社会で活躍する人材を育成することを目指している。

部活動の活性化といたしましては、外部人材を活用し、部活動の活性化を図って努力していきます。また、総合型スポーツクラブと連携し更なる活性化を図って参りたいと考えております。

問 2018年度における小中学校教職員の時間外勤務の実態について

答 小学校で月平均約35時間。
中学校で月平均約50時間。

問 教育委員会による学校現場への負担軽減策について

答 現在、校務支援システムの導入を検討しているところです。

問 学校現場における勤務時間の把握はどのように行うのか

答 校務支援システムを導入することにより出退勤を把握できると考えています。

意見

地域の宝である夕張の子どもたちに教育改革の道筋を絶つことなく、教育に投資することで、地域は確実に豊かになりますとの方針ですので、今後とも夕張の教育環境の魅力化に向けて教育に投資することをお願いします。

熊谷桂子議員質問

『石炭博物館模擬坑道火災』について

問 市長は所信表明の中で、石炭博物館は本市観光の中核であり、再生夕張の象徴でもある本施設の一日も早い復旧を目指したいという思いであること、また、一方で専門家のご意見とともに、再開後の安全性の確保なども優先課題との、見解を表明されているが、再開に向けての今後の手順について伺う。

答 模擬坑の水抜き経費の問題、坑道点検に安全対策が必要かどうかの確認な

ど、一つ一つの作業を積み重ねていく。

問 有識者会議の次の日程はどのようになっているか。

答 それぞれから個別にアドバイスをいただいているが、有識者会議としての予定はない。

模擬坑の歴史的意義

この「模擬坑」は1900（明治33）年に開かれた北炭夕張炭鉱の主要坑口でもあった「天龍坑」の一部を利用して、1941（昭和16）年、切羽（採炭現場）を設け見学や鉱員の研修設備としたもので、皇族や多くの見学者が訪れてきた歴史的な経過がある。夕張の模擬坑は、「登録有形文化財」となっているが、日本で有数の石炭企業であった北海道炭礦汽船㈱夕張鉱の模擬坑道を展示施設として継承し、実際の炭層内に設けられていることから、世界的に見ても、実物坑道を公開している数少ない施設の一つと言われている。また、坑道展示では、明治期から現代に至る採炭現場を時系列的に展示しており、自走枠とドラムカッターで構成された重装備機械採炭設備が動態保存（機械が動いている状態で保存）されているのは、世界的にみても、ここだけだと言われている。そのため、対外的にはわが国を代表する産業系の社会教育施設として評価されてきた経緯があり、昭和戦前期の産業遺構として国指定の「史跡」や「重要文化財」としてもおかしくない施設だというのが専門家の見方である。国内だけでなく、世界的に見ても希少なものであり、石炭を掘るためにつくられた、この夕張の街に住む、私たち市民の本当に貴重な財産である。また、5月20日には、炭・鉄・港が日本遺産に認定されたところだが、日本の産業革命を支え、近代化の原動力になったエネルギーが石炭だったわけで、国にとっても貴重な財産である。

問 是非、国や道にも支援を求め、再開に向けて最大限の努力をお願いしたいと思うが、いかがか。

答 まずは水の処理ができるのかを確認し、次に安全確認にどの程度の費用がかかるのか不明であり、方向性が打ち出せていない状況。目標が明確になった時点で、資金援助等について国に支援を求めるのかを判断したい。

意見

今後、安全管理には最大限注意を払っていただきたいことと、更に、今後二度とこういったことが起こらないよう、再開に向けて原因究明をしっかりとお願いしたい。

その事をお願いした上で、日本共産党としても必要な支援を国政や道政段階でも訴えて、力を尽くして行く所存であることを表明し、質問を終わります。

高間澄子議員質問

特別職の報酬について

問 財政再生計画本文の「特別職給与及び報酬等の削減」の変更について

具体的な内容

財政再生計画本文の「特別職給与及び報酬等の削減」の変更において、給料を条例本則の額から平均で60％以上削減する期間を「平成31年4月改選まで」から「当分の間」に変更する理由と「当分の間」とは、いつまでと考えているのか。

答 本年4月に発生した「石炭博物館模擬坑道災害」の影響の大きさにあります。注水作業を実施し鎮火に至ったが「この先」を見込むのは非常に難しい状況にある。当該施設の維持と今後の再開にむけた作業はこれからが重要な局面を迎えます。特別職の給与改善については、こうした情勢にある今、給与改善を見送ることとした。

また、「当分の間」と変更する点も今後の推移を見極めながら判断したいと考えている。

問 この抜本見直しでの改善には、市長のみならず教育長の給与も関係している。市民の理解・合意であることから出来るだけ早い時期に更なる計画変更をすべきではないか。

答 第三者委員会の中でも特別職報酬の削減があまりにも大きすぎるとの意見が多かった。しかし、火災鎮火に当たり消防の燃料関係に400万以上の支出が見込まれ一般財源で処置をする。今後市民の皆様、検討委員会、報酬審議会の報告を受けとめ、推移を見極め適切に判断をして行きたい。

問 今回六月八日より博物館一部の再開も決まりました。前市長、前々市長は講演依頼も数多くあった様に思いますが、厚谷市長には夕張再生の為に心置きなく働いてほしい。様々な事情を考えても年度内に戻すべきと思う。これは、大半の議員の思いでもあります。

答 今回私が決断した報酬の対応について、只今縷々話を頂きました事をしっかり重く受け止めていきたい。やはり市が所有している施設から「出火をさせた」という事実があります。その対応もありますが、今後適切に判断させて頂きます。

今川和哉議員質問

問 歳入における自主財源の確保策について。

答 今後も財政再生計画に則り確実な収入確保・徴収

率の向上に努め、国や北海道の各種制度について情報収集を怠らず。また財政再生団体である本市の状況を的確に伝えて最適な財源確保を行う。また、ふるさと納税も貴重な財源であり、夕張ならではの魅力を積極的に発信するよう努める。

問 企業版ふるさと納税が継続になった場合の対応は。

答 東京等への挨拶まわりの際に、ご支援いただいた企業にも訪問したく調整している。

問 ふるさと納税の増加に向けた課題について。

答 返礼品競争ではなく、どのような事業に活用するかを明確にして支援を頂くことが必要。サイトやパンフレットなどPRの場を積極的に活用する。

問 夕張市HPバナー広告の活用について

答 市内の事業者割引制度、複数割引制度、長期契約割引制度などの策を講じ、魅力的な表示のため画像の容量を増やすなどの取り組みをしてきた。今後も必要な見直しを検討したい。

問 市内企業の掲載条件を見直してはどうか。

答 バナー広告を募集していることをもっと目に留まるようHPへの掲載・紙媒体での情報提供について検討していきたい。

問 市民参加型のまちづくりを行うための継続性ある市民参加について。

答 委員会を設置した後、それを継続的に残すかは、まだ検討が進んでいない。市政懇談会については、前市長と同様に取り組みたい。市民の声を市政に反映する方法について、様々な観点から検討したい。

問 拠点複合施設の運営における市民参加について。

答 市民が自分事として積極的に関わっていけるよう、施設の有効活用を図ることが必要。将来にわたり愛され活用されるよう、市民・団体の皆様とどう連携すべきか検討していく。

問 拠点複合施設の管理に、市民が何らかの形で関与することは。

答 施設全体の運用については、市が管理しながら実際稼働していく中で対応について検討していきたい。

問 「炭鉄港」の日本遺産決定を受けて、夕張市の役割をどう考えるか。

答 今後の取り組みについては、炭鉄港推進協議会が中心になって検討していく。夕張市も関係団体と協力しながら魅力の発信に努める。

問 この機会を、夕張市はどのように活用していくか。

答 日本有数の炭都夕張、これを築いた先人たちに想いを馳せつつ、先人たちに負けないよう新たな地域の魅力を紡いでいきたい。

問 JR線路跡地の活用について。

答 拠点複合施設に必要となる用地以外の鉄道用地については、原則JR北海道において管理することとなっている。

問 民間で旧鉄道施設活用の要望があった場合に、市はどう関わっていくか。

答 市民から活用について要望があった場合には、JR北海道へ申し送りし、場合によっては市も別途協議する。

問 拠点複合施設周辺の線路跡地に線路を展示する等の考えはないか。

答 すでにJR北海道によって線路の撤去が行われており、実現は困難である。

「夕張メロンの初セリ」を視察

市議会行政常任委員会で5月24日に札幌市中央卸売市場で行われた「夕張メロン」の初セリを視察いたしました。

当日は全議員（8名）が午前7時前に同市場に到着し、千玉が並べられた会場へ入り、市場独特の雰囲気の中で厚谷市長の挨拶の後セリが始まり最上級の「秀品」1箱（2玉）が過去最高額となる500万円で競り落とされました。

「夕張メロン」は現在、果物の王様と呼ばれ全国に流通しておりますが、これまでの先人の苦労と研究、そしてそれを継承されてきた現在の生産者の皆様に対して敬意を表するところでございます。

これからも夕張市の特産品である「夕張メロン」を継続して生産していくために、後継者不足の問題や担い手の育成等々、「議会や行政の立場で何ができるかを考えていかなければならない」ということを感じた視察となりました。